

# **NPO法人 Class for Everyone**

## **「2012年度 事業報告書」**

- ① はじめに
  - 何故、いま途上国のことを考えるのか
- ② 2012年の主な成果
  - 開発途上国における教育に関する事業
  - 開発途上国における自営業の発展を支える事業
  - 開発途上国における情報格差を是正する事業
- ③ 各プロジェクトの紹介
  - 1、フィリピンの地方でオンライン教育施設の建設
  - 2、フィリピンのスラム街に多目的パソコン施設の建設
  - 3、フィリピンのスラム街に住む自営業者向け投資&教育
  - 4、日本のリユースパソコンを世界へ届けるプロジェクト
  - 5、フィリピンのスラム街にパソコンのリユース施設建設
- ④ 最後に

# PROLOGUE

## #00

はじめに

## 何故、いま途上国のことを考えるのか

「21世紀はアジアの世紀」

どこか閉塞感の漂う日本から飛行機で数時間、東南アジアの各国は熱気で沸いています。活発に動く人々、そびえ立つビル郡とその上に並ぶクレーンの数々……。シンガポールやタイなどはもちろんのこと、ベトナム、インドネシア、ミャンマー、そしてフィリピンに進出する日本企業が増えていることは、日々のニュースなどでも盛んに取り上げられています。

しかし一方で、急速な成長の代償として、環境破壊をはじめとした様々な問題が起きています。そして、その成長の裏で取り残された人々が存在し、スラムなどで暮らしています。

はたしてアジアで何が起きているのか。そして、私たちが日本人としてできることは何なのか。第二次世界大戦後、世界の最先端を目指しがむしゃらに突っ走ってきた日本は、世界のどの国々よりも大きな、そして世界初となるような問題に直面し、その都度それを乗り越えようとしてきました。そしてこの姿勢と魂は、文化や慣習を通じて私たちの世代にも確実に宿っているはずです。

もちろん、少子高齢化、経済成長率の鈍化、震災復興、原発問題など、日本国内で起きている様々な問題に対処することも求められます。しかし、そんな国内が苦しい今だからこそ、外の世界にもっと目を向けるべきではないでしょうか。

いま日本が抱えている問題は、未来の世界の問題になり得ます。

私たちが外の世界を知り、社会全体の根本的な問題のことを考えて行動することが、日本を含め世界を変えるきっかけになるかもしれません。

そしてそれらは、数多くの問題を経験し、それに打ち克ってきた日本人だからこそできることではないでしょうか。

日本人として生まれた誇りと自負を胸に、今こそ行動を起こすときです。

◇-----  
NPO法人 Class for Everyone  
代表理事  
高濱 宏至 Koji Takahama  
TEL: 094-9611-8027(フィリピン)  
090-1120-8503(日本)  
E-mail: [takahama@class4every1.jp](mailto:takahama@class4every1.jp)  
URL: <http://class4every1.jp/>  
-----



# REPORT

## #00

### 2012年の主な成果

## 「フィリピンでの活動の幅を広げつつ、世界の途上国との連携を促進」

### ■開発途上国における教育に関する事業

#### ◆ フィリピンの地方でオンライン教育プロジェクト開始

2012年1月～2月にかけて、ラグナ州のサンフランシスコに教育建設を建設し、日本から運び込んだパソコン10台を使って、主に地元の人々にインターネット にアクセスする機会とICT教育機会を提供した。

#### ◆ フィリピンのスラム街に多目的パソコン施設の建設

2012年5月～6月にかけて、マニラのスラム街に現地NGO、ゼロックス・フィリピン社と協働で施設を建設し、日本から運んだパソコン15台を使って雇用創出や自営業者教育に活用する予定である。

### ■開発途上国における自営業の発展を支える事業

#### ◆ フィリピンのスラム街に住む自営業者向け投資&教育

2012年6月、8月、11月に、スラム街に住む自営業者向けに小額の投資とパソコンを使った収支計算のスキルを教育し、各々の自営業を黒字化して収益改善することを目標としたプロジェクトを開始した。

### ■開発途上国における情報格差を是正する事業

#### ◆ リユースパソコンを世界へ届けるプロジェクトを開始

2012年8月にFOTWORLD+αと合併したことにより、パソコンの収集と寄贈国数が大幅に増加し、2013年3月末までにガーナ、タンザニア、ラオス、フィリピン、日本の5ヶ国に計400台のパソコンを届け、さらに台数や寄贈国も増加していく予定である。

#### ◆ フィリピンでパソコンのリユース促進プロジェクトを開始

2011年11月より、フィリピンにおけるパソコンの寄贈をさらに促進させつつ、現地に雇用を生み出すために、パソコンのリユース作業をするための施設整備に着手した。2013年5月までに完成予定である。

# REPORT

## #01

### ■開発途上国における教育に関する事業

## 「フィリピンの地方で オンライン教育プロジェクト」

日時: 2012年2月23日～  
場所: ラグナ州サンフランシスコ  
対象: 子どもたち、高校生



#### ◆プロジェクト概要

ラグナ州の山間部にあるサンフランシスコという村で、インターネット環境のあるパソコン施設を建設し、主に現地の住民にインターネットにアクセスする機会と、オンライン教育やICT教育機会を提供するプロジェクト。1月の中旬より日本からパソコンを運び込み、現地住民の協力をもらいながら施設を建設した。

#### ◆プロジェクトの過程

団体として初の大掛かりな事業だったが、経験のないこともありパソコンの郵送や現地での契約などかなり手間取った。まずは候補となる施設を3つほど定め、各施設の立地や賃貸契約条件などを確認し1つに決定した。その後、その施設の掃除、および内装の整備に着手しつつ、輸送したパソコンを受け取りにマニラの郵便局へ。受け取ったパソコンを現地に運び込み、その後でセットアップを行った。現地のプロバイダーとも契約をして回線を引いてもらい、2月中旬から本格的に施設を稼働させた。

#### ◆現地での運営と教育

現地でマネージャーを一人雇い、その人の名前で登記して運営している。すでに信頼関係が構築できていたこともあり、毎日の管理・収支報告については問題が見られなかった。

教育に関しては、2011年に作成したオンライン教育の素材などを活用し、現地の高校生に対する教育を中心に実施している。地元の新聞にそのことが取り上げられたりもして、活動も少しずつ定着してきたところだ。

今後は学校へ直接パソコンを寄贈し、そこでオンライン教育を行うことなども視野に入れていきたいと考えている。



# REPORT

## #02

### ■開発途上国における教育に関する事業

## 「フィリピンのスラム街に 多目的パソコン施設の新設」

日時: 2012年5月5日～9月12日  
場所: メトロマニラ州タギッグ市  
対象: 貧困層の母親、若者、  
自営業者



#### ◆プロジェクト概要

フィリピンのタギッグ市にあるスラム街において、インターネット環境のある施設を建設し、そこに住む人々のニーズに応じた教育支援と就業支援事業の土台を作るプロジェクト。

現地NGOのGAWAD KALINGAや現地日系企業ゼロックス・フィリピン社と協働でプロジェクトを推進し、今後の運営及び管理の仕組みを構築した。

#### ◆プロジェクトの過程

この地域での活動を開始した経緯は、パソコン寄贈を依頼した相手にゼロックス社の行う社会貢献活動を紹介してもらったことに始まる。その延長として、パソコンを活用した施設の新設などを一緒に行うという話になり、この協働プロジェクトが実現した。

パソコンの輸送、セットアップなども前回プロジェクトの経験があったので比較的スムーズに行えたと同時に、現地NGOによってコミュニティがしっかり形成されているので、コンタクトパーソンなどの選別が容易だった。つながりとしても非常に有意義なこともあり、ここをメインの拠点に様々なプロジェクトを展開していきたいと考えている。

#### ◆現地での運営

現地での運営は、NGOのGAWAD KALINGAに委任しつつ、現地責任者の名前で登記した組織を母体に運営している。

主目的としては、教育と就業支援を行うことで施設の運営などを通して雇用を生み出したり、パソコンを活用した教育を行うことで、親の世代の貧困問題を解消していくことに力点を置いている。

また、同時に職のない若者に対しパソコンを使った形での就業支援やスキルアップを促進することも検討している。ここでスキルを身につけることで、彼らの将来的な就業支援につなげていきたい。



# REPORT

## #03

### ■開発途上国における自営業の発展を支える事業

## 「フィリピンのスラム街に住む 自営業者向け投資&教育」

日時: 2012年6月、8月、11月  
場所: メトロマニラ州タギッグ市  
対象: 貧困層の母親、自営業者



#### ◆プロジェクト概要

フィリピンのタギッグ市にあるスラム街において、自営業者向けにエクセルの使い方を教育し、収支計算することを前提に小額投資をしてビジネスの黒字化を促進するプロジェクト。

スラム街における貧困サイクルを解消するために、親の収益改善をする必要があると感じ、その中でも問題が表面化しているものから着手するべく、自営業者への支援と教育を行うことにした。

#### ◆プロジェクトの過程

フィリピンでは国民の30%近くが自営業を行っているという統計結果があるように、とても多くの人々が自営業をしている。そして彼らの共通の問題として、多くの人がコスト計算を行わないという悪習慣がある。つまり、赤字になっていることに気付かず自営業を続け、結果として貧困をますます助長してしまっているのだ。そして、これらの傾向は学歴や収入が低い貧困層に顕著に見られる。

この問題を改善するために、貧困層の自営業者に小額の投資を行いつつ、エクセルなどによる収支計算の方法を教えることで、自営業を黒字化させると共に、計算する習慣を身につけさせることを目指す。

#### ◆現地での運営

現地では、5月と8月にそれぞれ小額の投資と計算スキルの教育を行った。商材が季節限定だったこともあり、5月のもは1ヶ月ほどしか行えなかったが、どちらの場合も毎日の計算を行いながら黒字化することができた。11月からは支援する家庭数を増やし、来年度から10家庭分の支援ができるように準備を整えていく。将来的には、成功者のノウハウなどを共有し、収支計算教育や運営などもグループを作ってまとめて行うことができるようにして、地域における収益改善を目指したい。さらには、各家の子どもたち向けにエクセルの使い方を教育していくことで、子どもの頃から計算する習慣を身につけると同時に、ICTスキルの向上を目指していきたい。



# REPORT

## #04

### ■開発途上国における情報格差を是正する事業

## 「日本のリユースパソコンを 世界へ届けるプロジェクト」

日時: 2012年8月～  
場所: 世界の途上国  
対象: NGO、学校など



#### ◆プロジェクト概要

主に日本の企業や家庭で使われなくなったパソコンをリユースし、発展途上国の学校やNGO、青年海外協力隊員の配属先や支援先などに寄贈し、発展途上国の将来世代の育成やICT教育を支援するプロジェクト。国内におけるパソコン廃棄のCO2やコストなどを削減すると同時に、世界の情報格差を是正することを目標に活動を展開している。現在までに、日本、タンザニア、ガーナ、ラオス、フィリピン、カンボジアの6ヶ国に約400台を寄贈している。

#### ◆プロジェクトの過程

ノートパソコン1台を廃棄せずにリユースすることで、約80キロのCO2排出削減につながるが、私たちはこれまでに300台以上のパソコンをリユースし、通算で約24トン分のCO2排出削減を実現してきた。このプロジェクトをさらに推進するため、今後は企業と受け手側である途上国で活動する団体への働きかけを強化し、来年度にはこれを年間1,000台(約80トン)まで引き上げたいと考えている。また、寄贈先の団体がICT教育や環境教育を行うことにより、途上国で環境に対する意識の高い若者を育成していけるということも、本プロジェクトの主目的である。

#### ◆現地での運営

寄贈における1ヶ所あたりの成果としては、NGOや小学校など寄贈先によって異なると予想されるが、例えば学校であれば多ければ1,000人以上の生徒にパソコンを活用してもらうことができる。また、現在までにガーナ、タンザニア、ラオス、フィリピンの4カ国で寄贈実績があるが、今回はこれに加えて新たな国へ寄贈先を開拓していけると期待している。

寄贈先の選定についても、幣団体が容易するフォーマットに従い、使用用途、数、何故パソコンが必要なのかについて記入してもらい、それをもとに行っている。また、現地からのレポートの提出も義務化しており、実際の効果を追うことができる。



# REPORT

## #05

### ■開発途上国における情報格差を是正する事業

## 「フィリピンでパソコンの リユース促進プロジェクト」

日時: 2012年11月～  
場所: フィリピン国内  
対象: 貧困層の若者



#### ◆プロジェクト概要

日本で活用可能な廃棄対象のパソコンを集め、途上国へリユースする工程を移管することにより、現地の若者のスキルアップを実現しながら就業機会を作り、リユース方法を教える中で環境教育を行うことで、先進国と途上国の2つの環境問題を同時に解決することを目指す。

#### ◆プロジェクトの過程

日本で集めるパソコンの数が多くなってきたこともあり、セットアップのための人手が足りなくなってきたことと、ハードウェアやソフトウェアに関するスキルを身につけることが貧困層の若者の将来につながるということから、セットアップ作業を現地で行えないかと考えここに至る。

実際に現地である程度のスキルを持つ若者も存在し、彼らを中心に教育と作業を実施できるスペースがあればリユースを促進できると感じている。あとは、フィリピン国内でどのような団体に寄贈していくかということ、広報と共に選定していくことが必要となる。

#### ◆現地での運営

現在のところ年間数百ペースで集められるパソコンを、1000台にまで増やし、そのうちの500台を本プロジェクトのためにフィリピンへ送付する。船便で送ると到着まで約2か月かかるので、その間に現地へ行き施設の建設と整備を行う。これについては、フィリピンのスラム街で貧困層向けに家屋などを建てる事業を行うフィリピン最大級のNGOのガワッカリングと提携することで、渡航前のある程度の建設に関するオペレーションは任せることが可能となる。

次に、現地でのリユース作業については、現地で職のない若者10人ほどを短期的に雇用し、リユースに関する教育を行う。教材については、日本の福祉作業所でパソコンのリユース活動を行っている団体からマニュアルを無償でいただき、これを英語に翻訳したものをを使う予定である。





## EPILOGUE

### #00

最後に

### 「2013年度の目標として」



団体を立ち上げて1年が経ちましたが、私たちは、これからも先進国の余剰と途上国の不足を解消するというアプローチの中で、主にパソコンを有効なツールとして途上国で活用していきます。その上で、今年度でやることができなかった課題の1つである国内における基盤強化に本格的に着手したいと考えています。

どんな組織も、一人の力で動かしていくことはできません。主に活動している現地フィリピンでももちろんですが、日本国内でも提携先企業、パソコンを寄付してくれる個人の方々、パソコンを届ける先の団体、支援者の方々など様々な人たちと一緒に活動を作り上げていきます。

これからの活動をさらに発展させていくためには、そんな様々な人々に対して、自分たちがどこに向かおうとしているかを明確に提示し、理解してもらわなければいけないと考えています。

NPO法人 Class for Everyoneの存在意義はどこにあるのか、実現したい社会の形はどのようなものなのか、そしてその社会を実現するために何を行っていくのか、何が足りないのか…。

私たちは上記のことを意識し、どんな立場の人からも見えやすい透明性のある団体を構築し、その上で団体の基盤を強化していきたいと考えています。

2013年度も宜しくお願い致します。

## 活動計算書

2012年 2月 28日 ～ 2013年 3月 31日 まで

(単位:円)

科 目	金 額		
<b>I 経常収益</b>			
1. 会費			
正会員受取会費	100,000		
サポート会員	21,000	121,000	
2. 寄付金			
寄付	502,000		
助成金	700,000		
パソコン寄付23台評価分	230,000	1,432,000	
3. 事業収益			
開発途上国における教育に関する事業	0		
開発途上国における自営業の発展を支える事業	0		
各事業の広報並びに啓蒙活動	0		
開発途上国における第一次産業従事者の情報格差を是正する事業	0		
イベントの実施及び参加	0	0	
4. その他収益			
受取利息	45		
為替差益	0		
雑収益	134,120	134,165	
<b>経常収益計</b>			1,687,165
<b>II 経常費用</b>			
1. 事業費			
開発途上国における教育に関する事業	796,759		
開発途上国における自営業の発展を支える事業	223,567		
各事業の広報並びに啓蒙活動	28,038		
開発途上国における第一次産業従事者の情報格差を是正する事業	172,256		
イベントの実施及び参加	82,810		
減価償却費	0		
その他経費計			
<b>事業費計</b>		1,303,430	
2. 管理費			
(1) 人件費			
役員報酬	0		
人件費計	0		
(2) その他経費			
什器費	201,371		
光熱費	11,311		
通信運搬費	200,481		
旅費交通費	144,650		
支払手数料	73,387		
その他雑費	36,894		
その他経費計	668,094		
<b>管理費計</b>		668,094	
<b>経常費用計</b>			1,971,524
<b>当期正味財産増減額</b>			△ 284,359
<b>前期繰越正味財産額</b>			550,000
<b>次期繰越正味財産額</b>			265,641

法人名： NPO法人 Class for Everyone

## 貸借対照表

2013年 3月 31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金預金	35,641		
棚卸資産	0		
流動資産合計		35,641	
2. 固定資産			
(1)有形固定資産			
パソコン23台	230,000		
有形固定資産計			
固定資産合計		230,000	
資産合計			265,641
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
未払金	0		
預り金	0		
流動負債合計		0	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			0
<b>III 正味財産の部</b>			
前期繰越正味財産		0	
当期正味財産増減額		0	
正味財産合計			265,641
負債及び正味財産合計			265,641

法人名： NPO法人 Class for Everyone

## 財産目録

2013年 3月 31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金預金			
三菱東京UFJ銀行	35,641		
未収金			
棚卸資産			
流動資産合計		35,641	
2. 固定資産			
(1)有形固定資産	0		
パソコン23台	230,000		
固定資産合計		230,000	
資産合計			265,641
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
未払金			
役員報酬	0		
預り金			
源泉所得税			
社会保険料			
流動負債合計		0	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			0
正味財産			265,641